

コラム



猛獣使いは

企業は過当競争に明け暮れ、不安定雇用や低賃金労働が進み、自殺や一家心中といった重い話が巷にあふれ、右を向いても左を向いても世の中真っ暗闇じゃ御座いませんか！と言いたくなってしまふほど、今の日本は残念ながら悪い方へ悪い方へと傾いて来てしまっている。テレビは戦国時代物が視聴率を稼ぎ、織田信長が持てはやされたりもしている。もはや現代社会も戦国時代ということなのだろうか？生活保護等の社会保障は次々と削減され、弱きは死ぬと言わんばかりの弱肉強食がまかり通ろうとしている。

良心的と言われる人々の方とは言う、暴君の権力者が現れる度に抗議し、対立候補を立てての運動等をおこなうものの、力及ばずの繰り返しが続いている。そして飲み屋では「あんな○○○○さえいなければ・・・」等の愚痴が続いている。

だが、皆が皆、世の中に対して不満を思っているかと言えば、決してそうでもない。むしろ、今の世の中を問題視している人の方が少数派というところに現代の特徴がある。

内閣府が2013年8月に発表した「国民生活に関する世論調査」の結果によると、「現在の生活に満足」との回答が71.0%（「満足している」10.3%、「まあ満足している」60.7%）という結果がでていいる。満足度は2012年の67.3%より更に上昇しているとい

う。社会保障が改悪され、年収200万円以下が1000万人もいるというのである。そして、憲法改正、集団的自衛権の行使、原発再稼働を進めようとしている内閣の支持率は依然として50%台を維持している。この現実をどう見、どう対応するかということの方が余程問われていると思う。

社会の注目度としては、特定の権力者の蛮行を改めさせることの方に行きがちということも一定理解はするが、特定の権力者を影で支える人々が大勢いるからこそ権力者は権力者として君臨し続けることができるのであり、私たちが本当に向かうべき相手は、実は特定権力者ではなく、身近にいるであろう権力者応援団の方なのではないだろうか。

哲学者で『善人ほど悪い奴はいない』等の著書のある中島義道氏という方が、「善人」という言葉を使いながら実に興味深い指摘を多数しているのをご存じだろうか。例えば、「善人は、安全（身の安全）という最高価値を守るためなら、他のあらゆる価値を踏みにじってもいいと思っている。～そういう人生を望むうちに、彼らはますます小さくなり、ますます弱くなる」、「善人は、祖国が勝利しているあいだは、いかに大量の敵を殺しても、膨大な敵に危害を加えても、凱旋する兵士たちを歓呼の声で迎える」、「群れをなす善人は管理されることを好む」等々といった具合だ。

いかが？



社 海樹

いくら何でも言い過ぎでは・・・と思われる方もいるかも知れないが、筆者はひとつも言い過ぎだとは受け止めていない。むしろ、至極当然の指摘だと受け取っている。第二次世界大戦、総評の解散、福島原発事故・・・と思いついていただければ十分なのではないだろうか。

残念なことだが、中島氏が指摘しているようなことは、現在社会のあらゆる場面に入り込んでしまっていると思う。中島氏のいうところの「善人」を他の主語に置き換えてみればより分かり易いと思う。「善人＝サラリーマン・組合員・隊員・そして自分」と置き換えて読み替えてみてほしい。労働組合で言えば、置き換えは組合員ということになるだろうが、管理されることを好む組合員、雇用・賃金と引き替えなら他の交換条件をすぐ吞んでしまう組合員、そして益々弱くなる組合員・・・思い当たらないであろうか？そして管理する側・権力側も益々凶に乗り、管理強化、交換条件強化を打ち出して来ているのではないだろうか。

昨今、あらゆる組織、そして労働組合もどんどん弱くなっていると言われているが、労働組合の幹部として協力者をイエスマンで揃え、異を唱える者を弾き飛ばして来た例が少なくなかったのではないだろうか。そして、その当然の帰結として、組織がやせ衰え、弱

体の一途を辿っている面も少なくないと思う。冷静に考えてみればすぐ分かることなのだが、幹部や上司の言うことに対してイエスとしか言わない人間ばかりを集めて他の組織と交渉しても、相手に対してイエスとしか言わないことは目に見えている。交渉事というのは会社の営業であろうと賃金の交渉であろうと、多額のお金が動く場合が多いので、交渉相手として「はい、そうですか」と言うことには決してならず、常日頃桶突く人間くらいでないとならぬものだ。会員や組合員の拡大と同様であろう。昨今のあらゆる面での衰退を特定権力者だけのせいにするのはいかがなものかと思う。

どんな組織であれ、組織が組織としての体をなし続けるには、異論、違う考えの排除は禁物というものだ。多文化共生、異業種交流等々と場面により言い方はいろいろであったと思うが、どれだけ違いを受け止められるか、共有化していけるか、多種多様な人間を束ねていけるか、新しい発見を見いだせるかであったと思う。あえて極端に誇張して言えば、組織内には猛獣（猛者）もいた方がよいのであり、幹部・リーダーに求められる条件とは、身内のお友達で組織を固めることではなく、猛獣も近くに置いておける、猛獣を束ねられる猛獣使いであることなのではないだろうか。